

一つの勇気

長野県 女鳥羽中学校 3年 小松 史佳

“Excuse me.”

それは私が2年前、授業で習った表現でした。意味はもちろん知っていて、自分が英語で話しかけられたことを理解するのに、時間はかかりませんでした。にもかかわらず、私の心の中は、外国人に話しかけられたことに対する驚きと緊張にあふれ、頭は真っ白になりました。こうして私は、修学旅行先の京都で、外国人観光客の方に突然道を聞かれたのですが、ここではそのできごとを通して親切について感じたことを書きたいと思います。

相手の話を聞いているとき、私は英語を聞き取ることに必死だったわけですが、そんな中、私をいっそう不安にさせたのは、相手の女性の表情です。彼女は自分の言葉が果たして相手に伝わっているのか自信がないようで、どことなく不安げな顔をしていました。私は、なんとか彼女を助けなければ、という使命感と、

“Sorry. I don't know.”

と言って、この場から早く逃げてしまいたいという気持ちとの間で揺れていました。というのも、私は自分の話す英語が正しいものなのかわからず、誤解されるのではないかと心配で心配でたまらなかったのです。

しかし、相手のことを思うと、もうできるだけのことをすべきなのだという気持ちになれました。そして今まで習ってきた英語表現を使い、相手の目をしっかりと見ながら、私は真剣な気持ちで相手に道を教えました。本当に緊張しましたが、すぐに彼女はこちらの言ったことを理解したようで、礼を言って去っていきました。そのときに、彼女が見せた笑顔は忘れられないものです。大げさに聞こえるかもしれませんが、互いに安堵の表情を浮かべたとき、世界は一つなのだなど、改めて強く感じました。

この体験を通して、私は親切には勇気が必要であると考えます。「誤解されるかもしれない」「下手に行動して、変な空気になってしまったらどうしよう」、募っていく不安は、自分を逃げの方向へ誘います。そこで勇気を絞り出せるかどうかが大切です。相手の気持ちを考えれば、きっと一歩を踏み出す力が与えられると思っています。

そしてこれは、親切の大小に関わらないことでもあると感じます。どうすれば相手が嬉しい気持ちになるか想像し、自信をもって行動すれば、自然と親切は生まれるのです。一つひとつが温かく、価値のあるものだと思います。困っている相手の気持ちを考えると、自分の心に「親切の種」が存在していることに、誰もが気づけるはずで、その種が大輪の花を咲かすためには、勇気が必要なのです。一つの勇気で二つの笑顔が咲く、これが親切だと思います。